

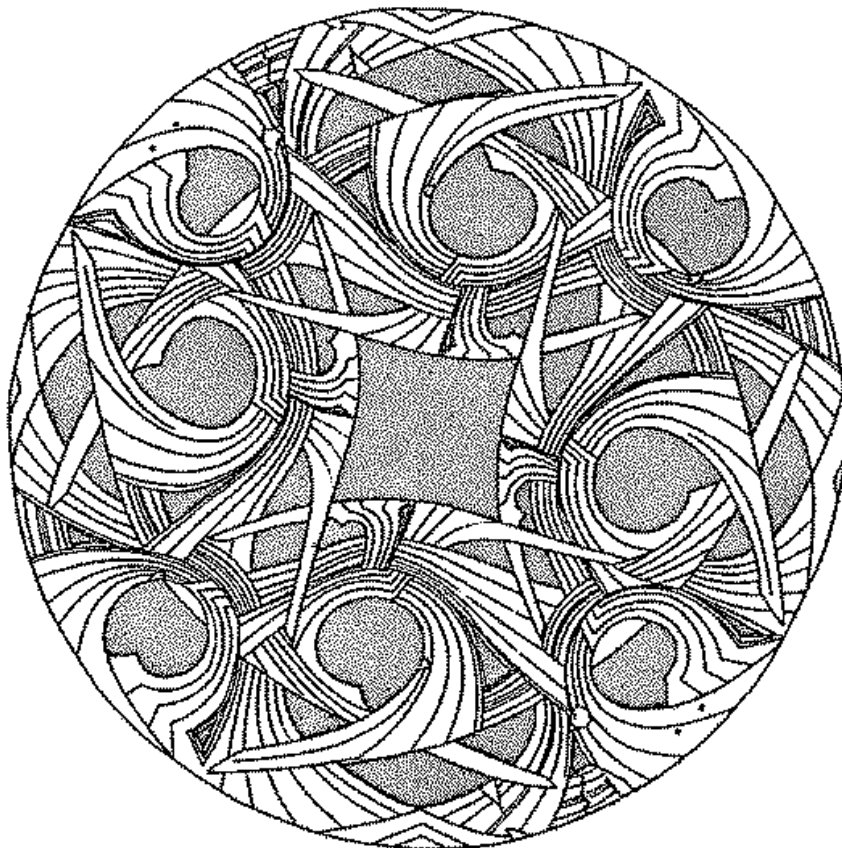
弧文円板

奈良県桜井市纏向石塚古墳の周濠から出土（1975年）

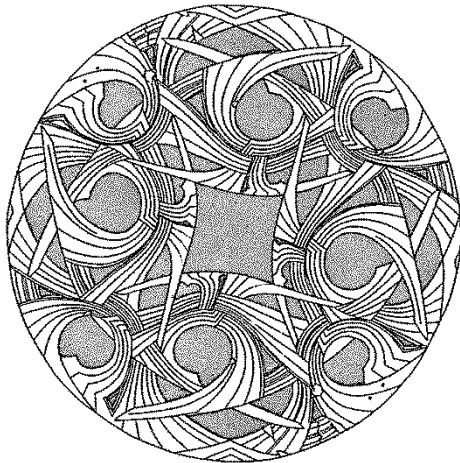
木製、直径56センチ相当。



写真から見る限りそれほど厚いものではないようで、多くは失われているが、幸いにも4回回転対称の構図と思われる基本単位が残っているので、以下のような復元図が描かれている。



復元図



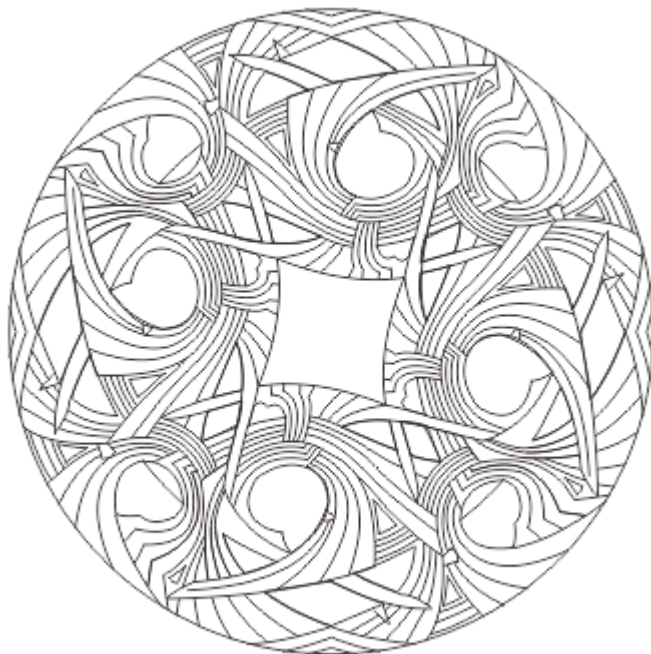
復元図

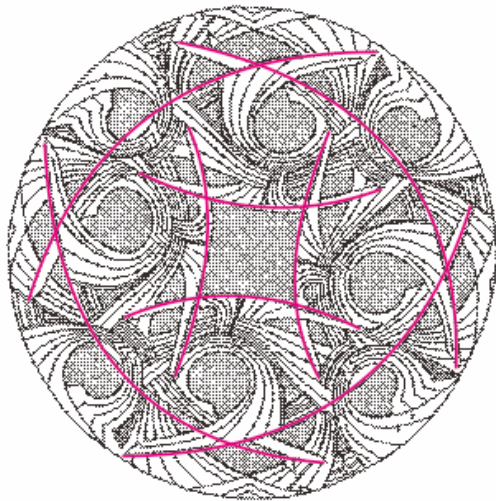


東京都調布市下布田遺跡出土(1964年)

真っ先に私が思い浮かべたのは、右の縄文晩期の土製耳飾（縄文のピアス）である。弧文円板は4回対称、縄文のピアスは2回対称という違いはあるが、円弧と正方形が基本となっている構図には似通ったところがあるように思える。

そこで復元図を元にわずかに修正を加えて、完全な4回回転対称図形を描いてみた。





幾何図

中央の正方形や9つの渦巻きの中心のほかに、大きな円弧（次図赤線）にも着目してみよう。

すると、9つの渦の中心を結ぶ正方形を拡大して45度回転した大きな正方形の頂点と辺の midpoint に、大きな円弧の交点が重なる。また、交差して小さな正方形を作る円弧の円の中心は円板の外周上にある、と言えそうだ。

縄文芸術の圧倒的な力強さと、精緻な幾何学的構図の融合を感じる。

